

INU Staff Shadowing Program 研修報告書

社会産学連携室 図書学術情報企画グループ主査

上田大輔

1. 研修概要

INU 加盟大学であるマルメ大学（スウェーデン）の図書館で 5 日間のシャドウイング研修を行った。

◆ 派遣先

マルメ大学（スウェーデン）

◆ 研修日程

2016 年 5 月 30 日（月）～6 月 3 日（金）

◆ 研修目的

- 1) マルメ大学図書館が行っている支援サービスについて学び、広島大学図書館が行う研究支援や学習支援の参考とする。
- 2) お互いの組織や業務内容について議論し、経験を共有することで、よりよい図書館サービスの向上につなげる。

◆ 研修スケジュール

Monday May 30

- 09:15 - 10:00 Meeting with Gunilla Lilie Bauer, Library Director
- 10:00 - 11:00 Meeting with Ewa Stenberg, librarian: Work place learning and Activity Based Workplace
- 11:00 - 11:30 Free time
- 13:00 - 14:00 Library tour and meet the staff
- 14:30 - 15:30 Research Support Services, Sara Kjellberg, librarian

Tuesday May 31

- 10:00 - 11:00 Meeting with Peter Nilen, head of Information Resources and Scholarly Publishing
- 11:00 - 11:45 The three teams under Information Resources and Scholarly Publishing and the Forum on System Management give a short introduction to their area of responsibilities and missions.
- 13:00 - 13:30 Meeting with Hanna Wilhelmsson, acting head of Teaching and learning environment

- 13:30 - 14:45 Meet the coordinators for team Communication, Maria Brandstrom, and Learning Environment & Events, Ann-Sofie Olsson
- 15:00 - 16:00 Meeting with Anna Singhateh, Senior Advisor Strategic Internationalisation.

Wednesday June 1

- 09:30 - 11:00 User Services and Teaching, Elisabeth Bergenas and Jessica Zaar
- 11:20 - 11:40 Purchase of monographs, Leif Svensson
- 11:40 - 12:00 Inter Library Loan, Carina Ohlsson
- 13:10 - 13:30 E-journals in our system environment, Linda Karlsson
- 13:30 - 13:50 Cataloguing, Karin Sedvall
- 13:50 - 14:10 Malmo University Open Access-policy and open repository, Jacob Andersson
- 14:10 - 15:00 Bibliometrics, Pablo Tapia Lagunas
- 15:00 - 16:00 Tour of the new building Niagara and look at the social innovation arena
- 16:00 - 18:00 Free time

Thursday June 2

- 09:30 - 10:30 Visit Health & Society Library, and the Library of Odontology
- 13:00 - 14:00 Visit Malmo Public Library.
- 14:30 - 16:00 International Office Opening Mingle Party 2016

Friday June 3

- 09:30 - 10:15 Fika and short presentation of Hiroshima University Library
- 10:30 - 11:30 Sum up and farewell

2. 研修の所感

この研修は私が想像していたよりもはるかに素晴らしい研修であった。それはひとえに、この研修の内容をアレンジして、すべての準備を取り仕切ってくれたマルメ大学図書館の Ann-Sofie さんと、私のつたない英語を辛抱強く聞いてくれ、議論を楽しんでくれたスタッフのみなさんのおかげである。

この研修では約 20 人の図書館スタッフの方から、それぞれの担当業務についての説明を聞き、本学との共通点や相違点、今後の展望などについて議論した。サービス、システム、マネジメントの各部門の担当者が説明をしてくれたため、マルメ大学図書館の業務全体を把握することができた。スケジュールはかなりタイトで、時には 20 分ごとに違う担当者

話をするということがあったが、議論はとても楽しく、様々なことを学ぶとともに、お互いの経験を共有するよい機会であった。そして、最終日には私から広島大学の紹介と広島大学図書館の組織や業務についてのプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションには多くのスタッフの方が参加してくれた。参加したスタッフからは業務内容や組織について多くの質問も出て、有意義な意見交換を行うことができた。特に、日本の大学では当たり前に行われている数年ごとの担当業務の異動は、欧米の大学ではまず考えられないことであり、そのメリットやデメリット、数年ごとの異動に対する評価、異動の決定プロセスや本人の希望の有無など、細かいところまでたくさんの質問があった。

このような経験を通じて、同じ業務を異なった視点からアプローチしていることに感心したり、逆に、こちらが当たり前だと思っていることについて、なぜそのようなことを行う必要があるのかを考えたりすることで、既存の業務を見直す良いきっかけとなった。

また、この研修をとおして大学図書館員の使命や役割を再認識することができた。地理的、環境的な違いはあるけれど、私たちは大学図書館員であり、利用者の学習と研究を支援する、利用者によりよいサービスを提供する、よりよい図書館を作っていくという目的のために、それぞれが自分の役割を果たしている点はまったく同じである。そして、様々な議論を通じて、それが大学図書館員にとって、とても重要であることを再認識することができた。

3. 自身の能力向上について

この研修をとおして期待される能力として、自主性、国際感覚、交渉・調整能力、企画能力、語学力の 5 つがあげられている。私がこの研修をとおして向上したと感じたのは、自主性と国際感覚である。

自主性に関しては、語学力が十分ではなく、自分の伝えたいことをうまく表現できないというもどかしさの中でも、積極的に議論に参加することができたことである。この研修では、マルメ大学の図書館や International Office、マルメ市立図書館など 20 名以上のスタッフの方と議論をする機会があった。その際に、ただ向こうのスタッフの話聞くだけではなく、私から疑問に思ったことをその都度質問し、広島大学の状況を説明して、時には業務改善の提案を行った。このように積極的にこちらの意見を伝えることで、お互いの業務の類似点や異なる点を双方で認識することができ、問題点や解決方法などを共有することができた。つたない英語のため、自分の言いたいことをうまく表現できなかったことはあったが、それに臆することなく、積極的に自分の意見を伝えて、有意義なディスカッションができたことは大きな収穫であった。

国際性に関しては、マルメ大学図書館の職場の雰囲気を感じることができたこと、そして、様々な考え方の違いを知ることができたことである。一口に国際性と言っても、国や地域、大学の置かれた環境によって、その状況は様々である。今回の研修で訪問した

マルメ大学図書館は、とてもフレンドリーでホスピタリティにあふれた環境であった。そのため、スタッフ同士での会話も多く、スタッフの方々の仕事の話や雑談をつうじて、日々の挨拶や日常会話の方法、上司と部下の関係性、職場空間や仕事のスタイル、仕事と休暇に対する考え方、女性の社会進出、男性と女性の家での役割分担といった様々なことに関して、日本とは異なるやり方や考え方を知ることができた。また、マルメ市は 170 もの異なる国籍の人々が集まっている多文化都市であり、マルメ市立図書館、バスや電車などの公共サービス、あるいは、買い物などの日常的な場面においても、外国人や外国のバックグラウンドを持った人に配慮したサービスやマルメ市民のホスピタリティを感じることができた。

4. 研修で得た情報・知識等について

この研修では、図書館での学習支援サービスと研修支援サービスをメインテーマに設定した。本項では、学習支援と研修支援を中心として、そのほか、広島大学図書館で参考となる知見について報告する。

◆ マルメ大学図書館の学習支援

1) 情報リテラシー

マルメ大学図書館では、学生個人を対象とした 1 対 1 でのセッションや、講座・ゼミなどのグループを対象としたセッションを通じて情報リテラシーを教えている。個人を対象としたセッションでは、学生個人から申し込みがあり、学生と図書館員が 1 対 1 で 1 時間のセッションを行う。このセッションは学生からの利用希望も多く、年間で 100 を超えるセッションを行っている。内容は学生の希望に応じる形で、文献の効率的な探し方や文献データベースの使い方などについて教えている。グループを対象としたセッションでは、教員のリクエストによって、図書館員が主に学部生に対して情報リテラシーを教えている。情報リテラシーの内容は、学年や段階に応じてその都度変えている。マルメ大学図書館では学部 1 年から 4 年までの各セメスターに応じて、何を教えるのかといったルーブリックに相当するものを作成しており、これを基本にして情報リテラシーの内容を構成している。また、前述した 1 対 1 のセッションで得られた問題点を抽出することで、学生が共通に抱えている問題点を把握し、グループセッションで教える内容へフィードバックしている。

広島大学図書館では、学生が必要な資料を探す支援や、特定の事項について調査するレファレンス業務は行っているが、学生個人に対して 1 対 1 で情報リテラシーを教えてはいない。このような 1 対 1 のセッションは時間と労力がかかるというデメリットはあるが、学生に応じてきめ細やかな支援ができるというメリットもあるため、今後同様のサービス導入の可否について検討する必要がある。また、グループセッションは、広島大学でもオ

ンデマンド講習会として同様のサービスを行っている。ただし、各セメスターに応じた具体的な実施内容は明文化していない。実施内容を明文化することで、職員間の情報共有と講習会の適切な内容設計が可能になる。

2) サブジェクトガイドの作成

マルメ大学は 5 つの学部で構成されており、人文学、社会学、理工学、保健学、歯科学などの多様な分野を専攻する学生が在籍している。そのため、各分野の学生が適切な学術情報へアプローチできるようにサブジェクトガイドを提供している。2016 年 6 月現在で、英語では 4 つの分野と 3 つのテーマ、スウェーデン語では 15 の分野、6 つのテーマについてのサブジェクトガイドが提供されている。各分野での学習や研究を本格的にスタートした学部生は、サブジェクトガイドを利用することで、学術情報を探するための適切なツールを知ることができる。また、多くの図書館員が交代で勤務するインフォメーションデスクでも、質問に来た学生にまずサブジェクトガイドを見てもらうことで、情報検索のスタートポイントとすることができる。

広島大学はマルメ大学より多い 11 学部、11 研究科を有しており、人文学、教育学、社会科学、心理学、理工学、農学、情報学、医歯薬学、保健学などと幅広い分野で学習や研究を行っている。そのため、学生は自分の専攻分野に応じて、様々な検索ツールの中から、適切な検索ツールを選択する必要がある。サブジェクトガイドは、このような学生に対して適切な学術情報資源をナビゲートする有効な手段となる。また、現在行っているオンデマンド講習会や大学院生や編入生、留学生のガイダンスを補完するツールとしても機能する。以上のことを考えると、広島大学図書館でもサブジェクトガイドの作成は、学習支援のために必要なサービスであり、導入を検討すべき事項である。

3) 学習空間の整備

マルメ大学図書館では、学生の学習スタイルに応じて、様々な学習空間の提供を行っている。Orkanen Library, Health and Society Library, Odontology Library の 3 つの図書館は、通常ゾーンと Quiet Zone を区分けしており、通常ゾーンでは学生は自由にしゃべりながら学習をすることができる。そのため、パソコンスペースや閲覧テーブル、リラクスペースなどの様々な場所で、学生同士が話し合いながら学習を行っている姿を見ることができた。Quiet Zone は静かに学習をするゾーンである。Orkanen Library は、講義室などがある吹き抜けのビルの 5 階にあり、とても広いワンフロアのすべてが図書館となっている。そのため、防音扉などで通常ゾーンと Quiet Zone を隔てることはされていなかったが、オープンスペースの一角が Quiet Zone になっており、学生たちは静かに集中して学習していた。一方、Health and Society Library, や Odontology Library では、扉で区切られた部屋が Quiet Zone となっていた。マルメ大学図書館は、基本的に自由にしゃべりながら学習をするスペースの方が広く、静かに勉強を行うスペースの方が狭い。広島大学図書館

では静寂な学習スペースの方が主流で、自由にしゃべることができるのはラーニングコモンズや一部のグループ閲覧室などの限られたスペースだけである。Orkanen Library は、その他にも、数名で利用できるグループルームが 20 以上あるほか、グループセッションなどで利用できる数十名を収容できる広い部屋も用意されている。また、ゆったりと座ることができるソファや、スナックなどを食べることもできるカフェスペースもあり、学習スペースだけでなくリラックススペースも充実していた。

ただ、担当者の方によると、利用者からはもう少し静かに勉強できる場所を増やしてほしいとの要望があるため、**Quiet Zone** を拡大すること、そして、学習スペースをさらに増やすために、1 人用の机とイスの増設を検討しているとのことであった。

学習空間の提供は、今日の大学図書館にとって重要なサービスの 1 つである。従来までは紙媒体の資料を保存し、提供することが大学図書館の主目的であった。しかし、インターネットにある情報資源へのアクセス環境が格段に向上した現在において、大学図書館では、学習空間を提供して学生の学習を支援することが従来にもまして重要となる。広島大学図書館では、中央、東、霞図書館、東千田未来創生センターにラーニングコモンズを設置して、学習環境の整備に努めてきた。しかし、既存の空間が利用者のニーズを十分に満たしているのかを評価し、ディスカッションスペースと静寂スペースのゾーニング、学生の学習スタイルに応じた学習スペースの提供、適切な机やイスの配置など、さらなる学習環境の向上について検討する必要がある。

4) 特別な支援が必要な学生への支援

マルメ大学図書館では、読むことに不自由がある学生のために **Talking Books** のサービスを行っている。**Talking Books** とは、電子テキストや音声データを提供している本のことである。**Talking Books** は **Swedish Agency for Accessible Media (MTM)** がスウェーデン国内の各図書館と連携をして、作成、提供している。

<http://www.legimus.se/102563/in-english>

マルメ大学図書館では、学生からのリクエストに応じて、**MTM** が提供する **Talking Books** へアクセスするための **ID** を発行する。学生は発行された **ID** とパスワードを使って、無料で **Talking Books** を利用することができる。**MTM** は多くの学術的な **Talking Books** を提供しているため、マルメ大学図書館は、**MTM** のサービスを仲介して、読むことに不自由がある学生の学習を支援している。

日本国内では、平成 22 年 1 月に施行された改正著作権法により、国立国会図書館を含む図書館等において視覚障害者等のための著作物の複製及び自動公衆送信が著作権者の許諾なく行えるようになっているが、国あるいは、個々の図書館レベルで、読むことに不自由がある学生を支援するために十分な量と質を兼ね備えた資料の提供ができていないと言われている。広島大学図書館でも、以前に書籍の電子的な複製と提供方法について、アクセシビリティセンターと協議を行ったが、十分なサービスは提供できていない。

◆ マルメ大学図書館の研究支援

1) 研究者が望む支援の調査

広島大学図書館と同様にマルメ大学図書館でも、研究者への研究支援はこれから本格的に力を入れていかなければいけないサービスだと認識されている。マルメ大学図書館では、研究者がどのようなサービスを望んでいるか、研究者にとってどのようなサポートが重要なのかを知るために、各分野の博士課程の学生を対象にして聞き取り調査を行っている。

2) 情報検索支援

情報検索の支援は図書館が研究者に対して行う重要なサービスの 1 つである。マルメ大学図書館では、上記の学習支援で述べたとおり、図書館員による 1 対 1 の情報リテラシーサービスを行っている。このサービスを利用することで、研究者は研究を開始する早い段階で、各分野で必要となるデータベースの使い方や、学術情報の入手方法を学び、効率的に情報検索と入手を行えるようになる。これにより、研究者は情報検索での無駄な時間を節約して、より多くの研究時間を確保することができるようになる。

3) コラボレーションの支援

マルメ大学図書館では、自大学の研究者と他の研究者の共同研究を促進するためのコラボレーションツールの導入を検討している。コラボレーションツールは、研究で用いるデータや執筆原稿を共同で編集・管理し、SNS 的な機能を使って、他の研究者と有機的につながるためのツールである。実際の運用はまだであるが、図書館が研究者のためのプラットフォームを提供することで、研究のプロセスを支援することを目指している。

4) オープンアクセス・出版支援

マルメ大学は、リポジトリシステム（現在は DSpace を採用）を使って、構成員の論文や図書などの業績データを管理・公開し、研究者の研究成果の発信を支援している。図書館では、研究者やアドミニストレーターによって登録される業績データの書誌事項の確認や登録の補助、および、リポジトリシステムの管理・運用を行っている。また、マルメ大学は、2011 年にオープンアクセスポリシーの採用を決定しており、大学の構成員は、出版した図書、雑誌論文、新聞記事、広報資料、ウェブページの記事といったすべての資料をリポジトリシステムに登録して、インターネット上から公開することが義務づけられている。しかし、実際には出版社との契約上の問題や著作権の関係上、フルテキストまで公開されるものは全体の 32% である。もし、研究者が業績データの登録を行わない場合は、研究費の削減などの罰則があるとのことであった。

広島大学でも同様に学術情報リポジトリから、構成員による研究・教育成果の公開を行っている。ただし、教員が生産した成果物は教員の自発的な提供にもとづいているため、

学術情報リポジトリに登録された成果物は全体の一部にとどまる。そのため、より包括的かつ効果的な研究成果の公開を行うためには、マルメ大学が採用しているオープンアクセスの義務化についても議論するべきである。

5) 研究データの管理と公開

現在、北米やヨーロッパを中心にして、実験データや調査データなどの研究データを管理・公開する動きが進んでいる。日本国内でもワークショップや講演会などで、研究データの管理について議論を行っているが、マルメ大学図書館でも研究データの管理と公開に向けて検討をしているとのことであった。

ヨーロッパでは EU の方針のもと、公的機関や財団などが資金を提供したプロジェクトでは、論文などの研究成果の公開のみならず、その論文作成の根拠となった研究データの公開も義務付けるという動きが進んでいる。そのため、マルメ大学図書館では研究データをどのように管理することができるのかという検討を進めており、各分野の研究者が扱っている研究データの種類と量についての調査を開始している。

論文や図書などの書誌データと違って、研究データは管理が難しい。なぜなら、各分野でデータの種類や構造、項目の定義が異なったり、特定のアプリケーションに依存するデータがあったり、扱うデータ量が大きすぎたりといった様々なケースが存在するためである。そのため、広島大学図書館でもその必要性は認識してはいるが、実際の取り扱いや運用方法などの具体的な検討はまだ行っていない。ただ、世界的な研究データの管理、公開の流れを考慮して、広島大学の研究者が取り扱っている研究データの種類や量などの基礎的な調査を開始する必要がある。

◆ 業務の効率化

マルメ大学図書館と広島大学図書館を比較して、業務の効率化について参考になった点を下記に挙げる。

1) 図書の発注

マルメ大学図書館では、契約をした 1 社にすべての図書を発注していた。これにより、通常の発注と比べると、大幅な割引価格がある、発注・支払業務が簡素化できるというメリットがある。発注の流れは次のとおりである。①総合目録で目録データを検索 → ②図書館システムへ目録データを取り込み → ③FTP により書店へ発注データを送付

発注データの送付は図書館システムを経由して行っているが、対応しなければいけない相手先は 1 社でよいとため、カスタマイズの手間も最小限で済む。広島大学では契約条件などから実際の運用は難しいかもしれないが、非常にシンプルで効率的なフローである。

2) 自館にない資料の提供

自大学の図書館に利用者が求める資料がない場合、広島大学では、利用者がその資料の購入を図書館に依頼するか、あるいは、他大学の図書館などからその資料を取り寄せるかを選択する。資料を取り寄せる場合は、往復の郵送料はすべて利用者の負担となる。一方、マルメ大学では、利用者から自大学の図書館にない資料の利用要求があった場合、図書館がその資料を購入するか、他大学の図書館などから取り寄せるかを選択する。その場合、自館の資料収集方針に合致すれば資料を購入し、自館の資料収集方針に合致しない場合や長期的な利用が見込まれない場合、あるいは、日本語や中国語の資料のように利用者が極めて限られる場合は、資料を取り寄せる。資料を取り寄せるにかかる費用は図書館が全額負担する。このように、資料を購入するか、あるいは取り寄せるかは図書館が判断し、それに必要な費用を一括で管理することで効率的な予算執行と適切な蔵書構築が可能となる。

また、マルメ大学図書館では、他大学などへ論文の複写依頼を行った場合はページ数にかかわらず、利用者には定額の料金を請求している。これにより、複写枚数の計算や1件ごとの請求金額の確認などの事務作業を軽減している。

3) 図書の保存と廃棄

マルメ大学図書館では、5年間利用のない資料は廃棄するか、希望者へ無償で提供している。マルメ大学はどの図書館も書庫がなく、資料を保存するスペースが十分でないため、資料の保存より提供に重点を置いている。保存の必要性について図書館長に尋ねたところ、スウェーデンでは2つの国立図書館があり、保存はそれらの図書館の役割であるとのことであった。また、資料の保存スペースやアクセスの容易性を考慮して、電子ブックと紙の本の両方が購入可能な場合は、電子ブックを購入している。広島大学図書館では資料の保存と管理にかなりの時間と労力が必要となっているため、資料の保存方針の見直しや管理の効率化を進める必要がある。

5. 本学への還元・活用について

本研修で得た情報や知識は図書館全体の報告会で報告するほか、必要があれば、各業務担当者やワーキンググループで個別に議論をして、業務改善に役立てる。組織全体にかかる事項は、管理職などに改善の提案を行う。また、図書館内で英語でのコミュニケーションに関する研修を実施する。

6. 本研修に対する評価

本研修は、シャドウイングを通じて各大学の業務を学ぶこと、そして、英語によるディスカッションやプレゼンテーションなどを行うことで国際経験を高め、グローバル化に対

応できる能力を養成するという2つの目的がある。

今回私が行った研修は、マルメ大学図書館が提供してくれた素晴らしいプログラムのおかげで、お互いの業務について有意義なディスカッションを行い、経験を共有することができた。また、5日間の研修の中で、約20名の方とのディスカッション、1時間のプレゼンテーション、あるいは日常的なやり取りをすべて英語で行うことで、英語の語学力が十分でない中、どのように質問をするか、あるいは、どのように自分の考えを相手に伝えるのかといったコミュニケーション能力を鍛えることができた。

このシャドウイングプログラムは、他大学での業務を学ぶことで自大学の業務を見直すことができ、英語でのやり取りを通じて国際経験を高めることができる重要な研修である。研修者が自分の関心のあるテーマを定めて、そのテーマに関して適切な機関を選択することができれば、この研修は多くの経験を研修者に与えることは間違いない。

また、今回のシャドウイングプログラムでは、マルメ大学図書館のスタッフの方たちに、貴重な時間を使って私の研修を行っていただいた。特に研修担当の方には多くの時間と労力を割いて研修の準備と実施をしていただいた。このようにシャドウイングプログラムは、素晴らしいプログラムではあるが、ホスト機関に多くの負担を課してしまう。そのため、今後継続してこの研修を実施するためには、広島大学もホストとしてこのプログラムを積極的に受け入れることが必要である。ホスト機関の担当者は、ゲストに自分の業務を英語で説明し、一緒に議論をしなければいけないため、この研修が目的とする相互の業務理解とグローバル化への対応能力を養成することができる。また、ホストだと海外に行くという時間的な制約もないため、より多くの職員が貴重な経験をすることができる。

この研修の大きなデメリットは、時間、予算、人数の制約があることである。シャドウイングプログラムのホスト機関としてゲストの受け入れを積極的に進め、この研修を逆の立場で、より多くの職員に経験してもらえることができるかどうか、この研修の課題である。

7. 謝辞

最後に、この研修を勧めてくださった人事グループのみなさま、INU への書類提出や各種手続きをおこなっていただいた国際交流グループのみなさま、研修で不在の間に業務のサポートをしてくれた図書館のスタッフに感謝いたします。そして、なによりこの研修を快く引き受けていただき、素晴らしいプログラムを提供してくれたマルメ大学の図書館と関係各所のスタッフの方々、特に研修プログラムの準備から宿泊の手配、研修時のフォロー、マルメでの生活全般にいたるまで様々な面で私を助けてくれた研修担当の Ann-Sofie さんに心から感謝いたします。